

## 引用文献

- 赤井由紀子, 山川正信, 岩谷澄香, 内山和美, 鍵谷英明 (2006). わが国における “Care in normal birth : a practical guide”の実態 病院と有床診療所の調査 助産師数からみた検討, 母性衛生, 47(2), 304-312.
- Berghella, V., Baxter, J.K., Chauhan, S.P. (2008). Evidence-based labor and delivery management, American Journal of Obstetrics & Gynecology, 199 (5), 445-454.
- Caldeyro-Barcia, R. (1979). The influence of maternal position on time of spontaneous rupture of the membranes, progress of labor, and fetal head compression, Birth and the Family Journal, 6(1), 7-15.
- Church, A. H. (1995). Managerial behaviors and work group climate as predictors of employee outcomes, Human Resource development Quarterly, 6(2), 173-205.
- deJong, P. R., Johanson, R. B., Baxen, P., Adrians, V. D., Westhuisen, S, van der. & Jones, P. W. (1997). Randomised trial comparing the upright positions for the second stage of labour, British Journal of Obstetrics and Gynaecology, 104, 567-571.
- 遠藤香織, 小松崎順子, 深澤千映子 (2005). フリースタイル分娩の導入と産婦の反応, 茨城母性衛生学会誌, 25, 55-59.
- 福井トシ子 (2012 a). 日本における混合病棟の実態, 助産雑誌, 66 (8), 644-651.
- 福井トシ子 (2012 b). 助産師出向システムが必要な背景, 看護管理, 22(13), 1123-1129.
- 古川洋子, 中野育子, 岡山久代, 中西京子, 高橋里亥, 村上節 (2010). 勤務助産師のキャリアアップに関する研究 ―助産師の研修希望とキャリアニーズ―, 滋賀母性衛生学会誌, 10, 9-16.
- Gardosi, J., Sylvester, S, & B-Lynch,C. (1989). Alternative positions in the second stage of labour : a randomized controlled trial, *British Journal of Obstetrics and Gynaecology*, 96, 1290-1296.
- Gupta, J.K., Hofmeyr, G.J. & Smyth, R.M.D. (2009). Position in the second stage of labour for women without epidural anaesthesia, Cochrane Library, Issue 4.
- 長谷川充子 (2010). 妊婦にとって楽な姿勢 ―分娩体位の特徴と選択のポイント, *妊産婦と赤ちゃんケア*, 2 (1), 19-27.
- 早川有子, 内藤和子, 竹中美, 大井けい子, 大谷美和子, 坂野ゆき子 (2000). 栃木県の妊婦の出産に対するニーズ : 分娩方法・体位・処置, 助産婦雑誌, 54 (1), 72-77.
- 籠井久美子, 二瓶良子, 太田操 (2002). 妊婦の主体的な出産に関する意識調査―出産場所

- 選択と希望分娩様式についてー, 母性衛生, 43 (1), 178-187.
- 日浅毅(2007). フリースタイル分娩を取り入れるために病院でもすぐにできる工夫, ペリネイタルケア, 26(9), 875-879.
- 堀内成子 (2004). 貴重な出産体験を軽視しないで 混合化する産科病棟に専門家としての知恵を, 助産雑誌, 58 (8), 698-703.
- Hersey, P., Blanchard, K. H. & Johnson, D. F. (2000). 行動科学の展開. 山本成二・山本あづさ 訳 (2000). 生産性出版.
- Hunter, S., Hofmeyr, G.J. & Kulier, R. (2009). Hands and knees posture in late pregnancy or labour for fetal malposition (lateral or posterior), Ltd. from Cochrane Database of Systematic Reviews database.
- 池田彩花, 小野芙由子, 境智佳子, 野村美香, 渡辺亜紀子, 平塚志保, 佐川正 (2006). フリースタイル分娩の臨床的特徴, 産婦人科治療, 92 (2), 203-210.
- 井本寛子 (2012). 「安全・安心な出産環境提供体制の推進に関する検討会」全国調査について, 助産雑誌, 66 (8), 674-677.
- 井上裕美 (2001). 分娩体位と胎児ジストレス, 周産期医学, 31 (11), 1524-1528.
- 石井秀宗 (2005). 統計分析のここが知りたい 保健・看護・心理・教育系研究のまとめ方. 文光堂.
- 岩田塔子 (2006). 体位別フリースタイル分娩介助法 第4回四つん這い(膝胸位), ペリネイタルケア, 25 (8), 794-802.
- 岩谷澄香, 赤井由紀子, 内山和美, 鍵谷英明, 山川正信 (2006). わが国の産科を有する病院における “Care in normal birth : a practical guide” の実践状況と改善点, 母性衛生, 46 (4), 666-673.
- 岩谷澄香, 内山和美, 山川正信, 佐藤賢太 (2009). わが国の病院における Care in normal birth : a practical guide (WHO) の変化 —2002 年と 2007 年のカテゴリーA, B 実践状況の比較—, 母性衛生, 50 (2), 284-292.
- Johannesson, R. E. (1973). Some problems in the measurement of organizational climate, Organizational Behavior and Human Performance, 10, 118-144.
- 鎌原雅彦, 宮下一博, 大野木裕明, 中澤潤 (1998). 心理学マニュアル 質問紙法. 北大路書房. 101.
- 片桐麻州美 (2007). 周産期病棟におけるセルフマネージングチーム制の評価, 聖路加看護

大学大学院看護学研究科博士論文.

川崎純子, 久木田尚子, 西千晶, 福山かおる, 江口美香, 昇眞寿夫 (2003). 産婦の満足度に影響する因子についてⅡ (アクティブバース導入後), 鹿児島県母性衛生学会誌, 8, 23-26.

河合蘭. (2007). 助産師と産む 病院でも, 助産院でも, 自宅でも. 岩波書店. 26-29.

木戸道子, 杉本充弘 (2004). フリースタイル分娩は有用か?, 周産期医学, 34 増刊, 349-351.

北原孝子 (2008). フリースタイル分娩, ペリネイタルケア, 新春増刊, 135-139.

小竹久美子 (2009). 妊婦の主体的なお産を引き出す助産師の援助, 妊産婦と赤ちゃんケア, 1 (3), 22-25.

Kotter, J. P. (2010). 第2版 リーダーシップ論 一人と組織を動かす能力. DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部, 黒田由貴子, 有賀裕子 (2012). ダイヤモンド社. 107, 114.

Koys, D. J. & DeCottis, T. A. (1991). Inductive measure of psychological climate, Human Relations, 44(3), 265-285.

厚生労働省. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/10/dl/h22-gaikyo-pdf> [2012-12-17]

Lewin, K (1951). 社会科学における場の理論. 猪俣佐登留 訳(1979). 誠信書房.

Lawrence, A., Lewis, L., Hofmeyr, G.J., Dowswell, T., & Styles, C. (2009). Maternal positions and mobility during first stage of labour, Ltd. from Cochrane Database of Systematic Reviews database.

松山裕子, 肥後寛子, 加納友子 (2010). アクティブバースに向けた妊娠期のかかわりと実践 ー病院での実際, 妊産婦と赤ちゃんケア, 2 (1), 35-40.

増渕弥生, 星宏枝, 入江綾子, 岩附美由紀, 小林睦美, 穂高律子 (2006). 分娩第2期の分娩介助法 2.側臥位, ペリネイタルケア, 新春増刊, 98-102.

Mendez-Bauer, C., Arroyo, J., Garcia Ramos, C., Mendez, A., Lavilla, M. & Izquierdo, F. (1975). Effects of standing position on spontaneous uterine contractility and other aspects of labor, Journal of Perinatal Medicine, 3(2), 89-100.

三河尻綾美, 池真菜美, 志岐奈緒美, 中村佐知子, 門永寛子, 郷原寛子 (2007). 妊婦の出産に対するニーズおよび認識調査, 兵庫県母性衛生学会雑誌, 16, 26-36.

宮崎英美, 飯畑裕子 (2004). バースプランの実現に向けた取り組み ーはじめてフリースタイル分娩を試みてー, 茨城県母性衛生学会誌, 24, 49-55.

- 水田正能 (1987). 分娩時母体体位の胎児所見に及ぼす影響に関する検討, 日本産科婦人科学会雑誌, 39 (6), 965-971.
- Moor, G, A. (1999). キャズム. 川又政治訳 (2002). 翔泳社.
- 宮本正子, 赤井由紀子(2010). フリースタイル分娩に対する病院勤務助産師の見解, 日本助産学会誌, 24(2), 386-397.
- 中根直子 (2008). フリースタイル出産・アクティブバース, PEEINATAL CARE, 夏季増刊, 124-127.
- 中村浩子, 中根直子(2010). 妊婦が満足のお産にするために アクティブバースの実践 フリースタイル出産への取り組み, 妊産婦と赤ちゃんケア, 2(1), 12-18.
- 日本助産師会 (2003). 産科病棟における混合化の実態調査に関する報告書.
- 日本看護協会 (2012). 平成 23 年看護関係統計集. 日本看護協会出版会. 16.
- 日本労働研究機構 (2003). 組織の診断と活性化のための基盤尺度の研究開発 ―HRM チェックリストの開発と利用・活用― 調査研究報告書 No.161 , <http://chl.hrsys.net/chl/info/info.html> [2012.2.16]
- 小笠原敏弘 (2002). 岩手県の勤務助産婦の分娩に対する調査, 助産婦雑誌, 56 (3), 229-233.
- 小笠原敏浩, 東大野朋子, 久保田慶子, 古舘睦子 (2002). 分娩体位からみる「分娩介助テクニック」 総合病院でのフリースタイル分娩の取り組み ～はじめてフリースタイル分娩を取り入れるために～, ペリネイタルケア, 21(3), 210-214.
- 尾島信夫 (1988). 産婦の体位の自由化と体位分類方式試案, 助産婦雑誌, 42 (5), 371-375.
- 小野口浩美, 増渕弥生 (2009). 「赤ちゃん和妈妈に優しいお産」を目指しての取り組み, 妊産婦と赤ちゃんケア, 1 (3), 13-21.
- Rogers, E, M.(2003). イノベーションの普及. 三藤利雄訳 (2007). 翔泳社.
- Russell, J.G.B.(1969). Moulding of the pelvic outlet, The Journal of Obstetrics and Gynaecology of the British Commonwealth, 76(9), 817-820.
- 佐藤悦, 村山郁子, 大竹幸江, 中村伸子, 三留節子, 渡辺美登里 (1992). 分娩第 I 期の体位が産婦に及ぼす影響―産婦の主観的評価を中心に―, 新潟大学医療技術短期大学部紀要, 4 (3), 303-311.
- 柴田真理子, 尾島俊之, 阿相栄子, 中村好一, 岡井崇, 戸田律子, 北井啓勝, 林公一, 三砂ちづる (2005). 快適な妊娠・出産を支援する基盤整備に関する研究 ―助産師を対象として―, 母性衛生, 46 (2), 374-383.

- 柴田眞理子, 尾島俊之, 中村好一 (2006). 快適な妊娠・出産における分娩期の体位に関する産婦人科医の考え方および実態に関する研究, 上部大学看護学部紀要, 1, 1-15.
- 島田真理恵 (2006) 病院出産で自由な姿勢を阻むもの, 助産雑誌, 60 (1), 16-19.
- 嶋野宇一郎 (2010). ロジャーズのイノベーター理論と普及研究 ―要点とまとめ― <http://www.h2omag.net/about.html> [2012-01-12]
- 篠崎克子, 堀内成子 (2011). 分娩第2期の分娩体位が会陰裂傷・会陰切開に及ぼす影響: 文献レビュー, 日本助産学会誌, 149-159.
- 篠崎克子 多様な分娩体位を実践する助産師の経験知, 日本助産学会誌 (査読中)
- 組織変革研究プロジェクト (2005). チェンジ・エージェントが組織を変える 組織変革実践ガイド ―トップと現場をつなぐ組織変革の実践的方法論―. 産業能率大学出版部. 19-20, 43-53.
- 杉山富士子, 中根直子 (1996). 私たちのフリースタイル出産介助の実際, 助産婦雑誌, 50 (8), 635-641.
- 菅原三枝子, 荒木奈緒 (1999). 産婦さん主体のフリースタイル分娩に取り組んで, 助産婦, 53(1), 28-30.
- 高木廣文, 林邦彦 (2006). EBN BOOKS エビデンスのための看護研究の読み方・進め方. 中山書店. 106-111.
- 上野麻紀, 寺前光子, 藤原直美, 吉田綾子, 河野光子, 山本恵美子, 北村幸太郎 (1997). ルーチンワークの見直しからフリースタイル分娩の取り組みまで, 助産婦雑誌, 51 (6), 456-462.
- 若松寿美恵, 中村薫 (2009). 母子の安全性を確保して進めるフリースタイル分娩の実際, 妊産婦と赤ちゃんケア, 1 (3), 26-33.
- Waldenstrom, U., Gottvall, K. (1991). A randomized trial of birthing stool or conventional semirecumbent position for second-stage Labor, Birth, 18 (1), 5-10.
- WHO Family and Reproductive Health Safe Motherhood Unit (1996). WHO の 59 カ条 お産のケア実践ガイド. 戸田律子訳 (1997). 農山漁村文化協会. 31.
- 矢口千秋, 綱川さおり, 小此木香, 竹之内久美子 (2006). 分娩第2期の分娩介助法 四つん這い, ペリネイタルケア, 新春増刊, 110-114.